

歯科衛生士が輝く時代の到来

皆様、はじめまして。山岸弘子と申します。私が歯科衛生士の皆様と交流するようになってから、十数年が経ちました。そのなかで、現在は歯科衛生士という仕事比以前にも増して注目され、期待されていると感じています。

歯科衛生士が注目されるようになった理由はいくつかあると考えられます。そのなかから3つに絞って理由を挙げてみます。

● 歯科衛生士への期待が高まっている理由

◎理由1 予防意識の高まり

1つめの理由は、国民の予防意識の高まりです。予防歯科に力を入れる歯科医院が増えたことにより、歯科衛生士が中心となり、患者さんと接する機会が増えていると考え

られます。

●理由2 超高齢社会の到来

2つめの理由は、超高齢社会の到来です。総務省統計局の発表によると、高齢者（65歳以上）の人口は、2014年9月15日現在、過去最高に達しました。具体的には、「高齢者人口は3,296万人、総人口に占める割合は25・9%（ともに過去最高）」「8人に1人が75歳以上」と発表されています。

超高齢社会になり、なぜ歯科衛生士が注目されるようになるのかというと、「口腔ケアが命を救う」ことが知られるようになったことが挙げられます。米山武義先生（静岡県開業）が発表された誤嚥性肺炎と口腔ケアの関係は、さまざまな媒体で取り上げられ、一般の方にも広く知られるようになりました。いまでは歯周病と糖尿病、あるいは歯周病と心疾患の関係も取り沙汰されています。

歯科衛生士が力を発揮する場合は、医療・介護の現場などに広がりを見せています。ある地方の病院では、病院内に歯科がないため、外部から歯科衛生士を招き、口腔ケアに

ついて指導してもらったところ、入院患者の誤嚥性肺炎が減ったと報告しています。また、ある介護施設では、歯科衛生士を採用し、専門スタッフとして口腔ケアにあたってもらったところ、誤嚥性肺炎が減ったと報告しています。

●理由3 歯科衛生士の努力

3つめの理由は、歯科衛生士の皆様の、継続したご努力の賜物だと考えています。

私は、「敬語」「コミュニケーション」「接遇」というテーマで、いろいろな職種の方々の研修をお手伝いさせていただいています。十数年前から歯科衛生士の方々の集まりにも参加させていただいています。

初めて大きな会場で、歯科衛生士の皆様を対象とした講演を行ったとき、主催者側の歯科衛生士の方から「先生、きつと驚きますよ。歯科衛生士はすごく真面目で、一生懸命ですから」と言われました。紹介されたとおり、皆様の姿勢は一生懸命で、一字一句聞き漏らさないという気迫さえ感じました。こうした姿勢で講演やセミナーに参加し、研鑽を積み、周りから認められないわけがありません。

「歯科衛生士は勉強熱心」「真面目」という声を、その後も何度も耳にしました。お互いにより刺激を与え合い、お一人お一人のご努力の積み重ねが、他の医療者からの期待や患者さんからの期待を生んでいると思います。

● 高まる「コミュニケーション力」への関心

わが国の高齢化は、今後ますます進んでいきます。高齢者の治療・介護をどうするか、歯科でも注目されています。最近も「高齢者における歯周治療」「老年歯周病学」「超高齢社会の歯科技工」「超高齢社会の歯科衛生士の役割」「高齢者における口腔保健」「高齢者の摂食嚥下」などのタイトルで、勉強会が開かれています。超高齢社会にどう対応していくのかは、社会全体が考え、取り組んでいる問題ですが、歯科も大事な一角を担っていると考えます。

高齢者の治療に対する専門力をつけようという動きとともに、歯科衛生士の皆様のなかで、「大きな波」となっているのが、「コミュニケーション力」を養う試みです。それ

を目の当たりにしたのが、歯科衛生士を対象としたとある講演会でした。その講演会では、コミュニケーションに関するテーマで、複数の講師が登壇していました。朝からたぐさんの方が並び、すぐに満席となりました。中継会場も満席で、着席できなかった方は立ったまま熱心にメモを取っていました。

あるベテランの歯科衛生士の方によると、コミュニケーション関係の講演にたくさんの歯科衛生士が集まるのが最近の傾向だそうです。歯科衛生士の皆様は、一般の方よりもはるかに高いコミュニケーション力をおもちです。しかし、超高齢社会のなかでは、以前とは違うコミュニケーション力も求められます。具体的には、「高齢者とのコミュニケーション力」、そして「他分野の方とのコミュニケーション力」です。

● 専門性を輝かせるために

核家族のなかで育ち、高齢者と接する機会が極めて少ないなかで育った世代の方々は、社会に出た際には「高齢者とのコミュニケーション力」を意識的に身につけていく必要

みんなの期待に応えられるように...



があります。また、超高齢社会では、他の医療関係者や介護関係者と力を合わせて治療にあたるケースが増えるため、歯科医院外の方とのコミュニケーション力も求められるようになりま

す。他分野の方々とも対等な互恵関係を築いていくためには、患者さんに対する接し方とは違うコミュニケーション力が求められます。

「専門力を活かすのは、コミュニケーション力」だといわれます。本書が、コミュニケーション力にさらに磨きをかけ、皆様の専門性をさらに輝かせるお手伝いになるよう、「コミュニケーションのヒント」を心を込めてお伝えしていきます。